

(一社)日本学童保育士協会

石川支部ニュース No.16

2025年6月1日発行

定例会だより＊公開講座「実践記録を書いてみよう」＊

5月21日(水) 16名(会員以外の方5名)の参加で今年もこの講座を開催することができました。指導員会の基礎講座を修了した方に日々の保育の記録を提供していただき、講師の上森さくら先生(会員 金沢大学)の助言、進行でその場で実践記録を書いていく(結果、書けちゃう!)という実に楽しい時間です。

報告者の表野指導員と上森先生から感想をいただきました。上森先生は感想の中で、「実践記録を書くことは、第一に目の前で起きていることをどう観るかという力を鍛えることにつながっている」と書かれています。日々の忙しさの中で、書くこと、振り返ることが、ややもするとないがしろになりがちですが、大切にしたいですね。

当日も含め、お二人には深くお礼を申し上げます。

『今日はありがとうございました』

表野 真理(白山市あおぞらクラブ指導員)

みなさんからのご意見とても心に響きました。

今回の講座では、「日々の保育の記録を実践記録としてまとめる方法を学ぶ」報告者として参加する事ができました。今回発表させていただいた事例はわたしの中で一番心に残っていて、何度も振り返ってしまう保育の記録です。

実践記録にまとめていく過程で、

・子どもについて新しい気づきがある ・理解が深まる ・そして自分の気持ちや考え方について振り返る事ができる

この3つはまさしくその通りだと思います。今回の講座では改めて記録の大切さを学びました。

日々忙しい中ですが、メモをとることも、メモという小さな記録ですがそのメモにはいろんな情報があると思っています。書くことはとても大切です。どの書き方が自分に合っているか模索しながら記録をとることを続けていこうと思っています。

3回目の実践記録書き方講座を終えて

金沢大学 上森 さくら

3回目となる本講座、実は講師の私の役割は多くない。事前に渡された記録をある程度時系列に並べて短文をつくり、意味のまとまりごとに段落をつくっておく。

当日は、実践記録を書いたことのある経験者たちに「みなさんであれば、どんな情報を加えておこうと思いますか？」と質問し、経験者たちが「自分だったら・・・について書くけど、〇〇さんはどうだった？」と、今回の実践記録の書き手に質問する。そこで回答されたことを、パソコンに打ち込んでいくという比較的簡単なお仕事

である。最後に、みなで作り上げた実践記録で加えられた情報の種類の解説をすれば講師っぽくなってしまふ。私の講座とされるのは少々おこがましいような気がする。

この講座が、実践記録を書いたことのない人にも役立つという観点からだけでなく、長年実践記録を書いてきた人



にも評価されるのは、実践記録を書くときに必要な情報を確認しあうことが、その前段階の、正に実践するときに何に気を配るべきかということを確認することにつながっているからではないだろうか。実践記録を書くということは、第一に目の前で起きていることをどう観るかという力を鍛えることにつながっている。

今回の講座で、多く質問のあったことは、①言葉以外の子どもの表情や雰囲気をもとにつかんだのか、②子どもとの対話をどのように始めて、どのように終えたのか、③周りの子どもの反応はどうだったのか、ということである。これらのことを実践記録に今後書くようになる、ということは、実践時にこのような観点を持つということである。

今回の講座も成功に終わったのは、前述のように参加者の成果である。3回目ともなれば経験者組の質問も順序だっていて、また焦点化されたものばかりで、とてもスムーズな進行だった。だが、もちろん最大の立役者は、記録を提供してくださった表野さんである。書かれていないことを質問されると、覚えていないことも多いのが通常なのだが、細かな子供の表情や対話の始まり、対話が終わった後の子どもの遊びの様子など、本当に驚くほど記憶されていた。真に実践記録にする価値のある場面を提供してくれた証拠である。（記憶に残らない場面を無理に記録に残して、さらに実践記録にする必要性はないと私は考えている。）

本講座は実践記録のタイトルを最後につけることにしている。もちろん、書きなれた人は、実践方針をもって実践に取り組んでいるはずなので、このような方法を取る必要はないだろう。だが、実践記録を書き始めたばかりの人は、自身の方針を自覚化できていないことも多い。一緒に実践記録を書きながら、「あなたが大切にしたいことはこういうことかな？」と問いあう時間も大事にしたい。

最後に、このような実践記録を検討しあう民間教育研究団体での共通認識がある。それは、実践記録とは書いて終わりではない、ということである。実践記録を読み、質問しあって、分析し、これからの実践に役立つ何かをつかんで実践記録は完成する（2年前に同じことを書いた気もするが）。その意味で、完成版の表野さんの実践記録分析会はずいぶん必要だと考えている。

*上森先生から当日の「皆でつくった実践記録」をコメント付きでいただいています。参加者に共有します。

支部会今後の予定

6月18日（水）9：30 県連 実践検討会
7月14日（月）午前 出前講座in輪島
輪島社協からの二ースに応じて
大屋小学校にて現地の支援員さん方と一緒に
研修をします（参加可能な方のみ）
9月17日（水）9：30 教育プラザ
「学童保育のこと しゃべろう会」
紙芝居（安原昭二さん 会員）、ミニ講座（
鈴木 瞬先生 会員）の後、参加者で交流会
10月22日（水）9：30 県連 実践検討会
11月9日（日）公開研究会（詳細未定）
12月17日（水）9：30 県連 実践検討会

日本学童保育士協会主催
オンライン講座のご案内

◎連続講座 6/12～12/11の間に6
回開催
見逃しは YouTube 配信あり

◎集団づくり交流会 9/23
◎集団づくり実践検討会12/21

それぞれ詳細は協会 HP やメールの
案内または重木指導員（会員 のび
っこクラブ）までお問い合わせくださ
い